

コロンビアの最新動向(12月1日～12月15日)

I. 政治・経済

1. 政府、資本規制を一部緩和

- 12月14日、政府は外国資本に対する規制を緩和する旨発表した。
- 政府は、2007年5月に、投機目的の資金流入がペソ高を招いているとして資本規制を導入、外国投資家は、取得資産(債券や株式など)の40%を6ヶ月間中央銀行に預託する義務を課されていた。
- 12月17日より、初公開の株式に対する投資に関しては預託義務が免除される他、ペソ以外の通貨での預託が可能となる。また、預託金を6ヶ月以内に引き出した場合のペナルティも、現在の1.63%～9.40%から0.98%～5.72%へと引き下げられた。
- 政府は規制を更に解除していくことを検討中。

II. 石油その他の資源セクター

1. 2008年にEPMは約7億ドルの投資を計画

- 12月4日、EPM(メデジン市公益事業会社)は、2008年に予算の28%に当たる約7億米ドル(1.4兆ペソ)を投資する計画を発表した。この内45%(約3.1億米ドル)は水力発電施設ポルセⅢ(660MW)の建設プロジェクトに充てられる。
- EPMは上下水道、発電、ガス、通信サービスなど多岐に亘る公益事業で成功を収めて来た。PROEXPORT(コロンビア貿易振興機構)によると、既にラ米の複数の企業がEPMと協力してプロジェクトを行う方向で動いている。
- 一方、EPMが今後も成長を続けるためには民間資本が必要との声もあり、政府はEPMの一部民営化も検討している。

2. Ecopetrolの第2回株式公開は数年先に

- 12月5日、鉱山エネルギー省によると、Ecopetrolの第2回目の株式公開は数年先となる模様。
- 2007年8月から9月にかけて市民を対象にした第1回目の株式公開(10.1%)では、28億ドルの資金調達に成功した。マルチネス鉱山エネルギー相によると、現在Ecopetrolには120億ドルの借入能力があり、当面株式市場での追加資金調達の必要は無い見通し。

以上

本レポートは発表時の最新情報に基づいて作成されておりますが、情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、レポートの内容は今後予告なしに変更されることがあります。予めご了承下さい。